

福岡市議会議員〈南区〉

近藤さとみ

いきいき便利 Vol.34
2023 AUTUMN

「いきいき」豊かな「まちづくり」

今号のトピックス

- 令和4年度決算 市民クラブは認定しかねる
- 決算特別委員会 総会質疑に立つ！
- 介護従事者の処遇改善をめざし、署名活動



令和4年度一般会計決算について、「認定できない」と判断しました！

～福岡市第5回定例議会(9月議会)開催～

9月1日(金)～10月5日(木)、令和5年度第5回定例議会が開かれ、補正予算や条例の改正、令和4年度決算議案を含む全54議案について審議しました。中でも、令和4年度一般会計歳入歳出決算については、認定できないと判断しました。

決算議案は、予算の執行が**適正かつ効率的**だったか、**効果があった**か、**議会の要望事項が執行面にいかされたか**という視点で審査します。認定できないとした主な理由は2点。1点目は、脱炭素のまちづくりに関連する事業について、**半数以上の予算執行率が50%未満、中には0%という事業もあり**、効果があったとは到底思われませんでした。2点目は、新規事業の「子ども習い事応援事業」で、対象とした**子どもの約2割の利用にとどまった**上に、利用実績からは当初の目的が果たされたとは思えず、これらの事業を含む昨年度の一般会計歳入歳出決算は認定することができないと判断しました。令和6年度予算の策定にあたっては、これらの事業の代替・改善案をはじめ、会派基本政策2023にもとづき、生活者・働く者の目線で、提案してまいります。



決算総会質疑 その1

南区では改善要望の多い「交通渋滞」の対策について、質す！

渋滞箇所は、平均時速20km未満を要件とし、交差点の平均速度の状況を確認しています。市内では全75カ所、その内、市管理の道路における渋滞箇所は27カ所、南区の渋滞箇所は10カ所あります(表参照)。

対策の一つ目は**道路の改良・整備**。南区では野間屋形原線(約760m)老司片江線(約680m)整備が進行中で、完成により交通の円滑化・分散化が図られ、屋形原三ツ角・やよい坂の改善が期待されます。既存道路では、桧原四ツ角への右折レーン設置により、改善につながっていますが、長浜太宰府線を例に、**市外の整備に向けた福岡県や周辺市への働きかけを要望**しました。

二つ目は**公共交通の利用促進**。市はパーク＆ライドの取り組みを挙げるものの、南部エリアでは目に見えた施策が弱いと言わざるをえません。直近5年間の福岡都市圏の自動車保有台数と運転免許証保有者数を見ると、福岡県・九州・全国と比べ福岡都市圏は増加していることから、南区を通る交通量の増加が懸念。周辺市に対する協力要請が必要です。

一方、バス運転士等の担い手不足は深刻で、生産性の向上による公共交通の維持のためにも、既存路線でのBRTの活用や自動運転の導入についても検討すべき時です。今後の都市交通基本計画の改定にあたり、**広域的な見地と新たな交通手段も見据えた交通計画を検討**するよう強く要望しました。

【南区内の渋滞箇所】

管理者	交差点名
国	ガンセンター入口
	的場南
	免許試験場入口
福岡市	那の川四ツ角
	清水四ツ角
	野間四ツ角
	井尻六ツ角
	屋形原三ツ角
	やよい坂
	老司四ツ角

決算総会質疑 その2

バリアフリー基本計画1年目の進捗を質す！

福岡市は、令和3年改定のバリアフリー基本計画に基づき令和7年度を目標年次として、官民連携によりバリアフリー整備を進めています。改定前の計画終了時点において、対象となる駅や公共建築物などの「施設」については、概ね改善が図られていましたが、国からの新たな方針により、対象となる駅や整備内容が追加となったことから、さらなる改善がはかられていきます。

道路のバリアフリー化については、特定の旅客施設又は生活関連施設が概ね1km圏内に3箇所以上所在している市内22地区を重点整備地区に設定し、地区内の生活関連経路(総延長49.3km)の整備が進められています。南区では、高宮地区(約53.7ha)と大橋地区(約62.4ha)の2地区が設定されており、優先的にバリアフリー化を進めています。

重点整備地区以外では、道路の新設・改良と合わせて歩道のフラット化や側溝の蓋の改良がなされていますが、高齢者の外出に便利な電動シルバーカーの利用も増えていることから、**地域活動の視点としてバリアフリーを取り入れ**、地域ニーズによるバリアフリー化にも積極的に取り組まれるよう要望しました。

とは言うものの、全市的なバリアフリー化の実現には相当な費用と時間がかかるものであり、民間事業者も含めた連携・協力が必要不可欠です。心のバリアフリーへの取り組みを通じて、お互いの理解を深めることで改善に近づくケースも多々あります。令和元年実施の調査では、「障がい者支援として、地域社会や企業に望むことは？」との設問に対し、「障がいに対する理解を深めること」という回答が最多。所管からはハードソフトの両面において、市民や事業者の理解を深めるよう取り組むとの回答を得ました。



ご協力いただいた皆さま
ありがとうございました

介護従事者の処遇改善に向け、署名活動を実施！

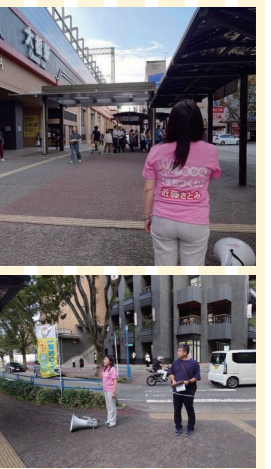


9月18日(祝)敬老の日、大橋駅東口の一角をお借りして、署名活動をさせていただきました。バスや電車の利用者、お買い物の方など、多くの方に耳を傾けていただき、署名にもご協力をいただきました。ありがとうございました。

団塊世代が65歳以上を迎える2025年を目前にして介護保険制度の改革が求められる中、2024年度は、介護サービスを受ける高齢者や家族、介護サービス提供者の双方にとって重要な年となります。

介護業界の人材不足は依然として高止まりが続いており(有効求人倍率3.87倍/全職業1.35倍:22年11月時点)、現場の介護従事者は心身ともに疲弊している状況です。若い世代の入職者が少なく、職員の高齢化が進んでいることから、働く側から介護保険制度が崩壊してしまう危険性があり、このままでは**必要な介護を受けることができない「介護難民」増加の可能性**があります。

今春の賃闘では、多くの企業が物価高騰を踏まえて賃上げを行いました。本年10月の地域別最低賃金は、過去最大の引き上げで全国平均1,004円、福岡県は941円となりました。こうした中、**医療・介護・福祉の分野で働く皆さんは、国の制度改定がなければ、処遇改善に結びつかない状況**におかれています。介護人材の確保・定着のために、処遇改善は必須であり、従事者が希望と誇りを持って働き続けられることが、利用者にも良質なサービスを届けることにつながり、介護保険制度の維持・発展に寄与するものと考えます。



ご案内

一緒に地域の「まちづくり」について話してみませんか？

「秋の市政報告＆懇話会」

9月議会の内容や市政の動き等についてご報告しつつ、皆さまからご意見等をお伺いする懇話会です。所要時間は1時間の予定です。

11月29日(水)
18:30～
「アミカス」(高宮)
2F研修室

12月3日(日)
10:00～
「塩原公民館」
2F地域団体室

12月10日(日)
10:00～
「三宅公民館」
1F講堂

近藤さとみ市政相談所



発行者:福岡市議会議員 近藤里美
福岡市南区大橋3丁目14-8-101号
TEL/FAX: 541-7373
E-mail: info@kondo-satomi.jp
URL: https://kondo-satomi.jp



日々の活動などを発信中！
フォローをお願いします！